

## 施設と露地栽培による野菜の周年栽培体系の実践

### 経営体の概要

事業実施前

基幹作物：さとうきび(夏植)50a

経営面積：50a



事業実施後

基幹作物：(施設) ゴーヤー20a、さやいんげん7.5a  
(露地) オクラ15a

経営面積：42.5a

### 取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体は、事業による農業用水の安定確保により、平成17年に兼業農家から専業農家に転身し、さとうきびから施設野菜(ゴーヤー、さやいんげん)及び露地野菜(オクラ)の栽培に経営転換を行っている。

現在は、ゴーヤーの作付面積を2倍に拡大させ、新たに導入したさやいんげんとオクラの組み合わせによる周年栽培の作付体系を実践し、農業経営の安定化を図っている。

また、新規就農者の受け入れを行うなど、担い手の育成にも取り組んでいる。

### 営農改善のポイント

#### ①作物の変化

事業前は、兼業農家でさとうきびを栽培していたが、事業により農業用水を安定的に確保できることや、農協のリース事業により施設ハウスを借用(42,500円/年/棟)できたこともあり、野菜の専業農家に転身。現在は、ハウスでゴーヤーを中心に、さやいんげんを栽培し、施設野菜の収穫後に露地オクラを作付する周年を通した作付体系を実践している。

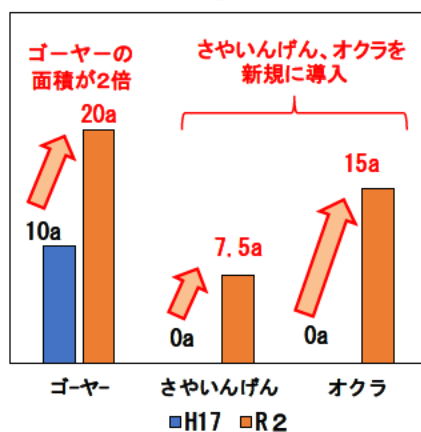
#### ②規模拡大

事業による農業用水の安定確保とかがい時間の短縮により、事業前と比較するとゴーヤーの作付面積は2倍(10a→20a)に拡大、また、さやいんげん(0a→7.5a)、オクラ(0a→15a)を新規に導入した。

#### ③担い手の育成・確保

平成30年度に県の指導農業士の認定を受けたことを契機に、島内の新規就農者の受け入れ(令和元年は1名)を行っており、ゴーヤーの植付けから収穫まで(約5か月)の営農指導を行っている。

作付面積の変化



ゴーヤーの栽培状況(植付直後)

### 事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：宮古島市

受益面積：9,156ha

事業期間：S62～H12年度、H21年度～

事業目的：畑地かんがい、用水改良

主要工事：地下ダム2箇所

副貯水池1箇所

揚水機場1箇所

用水路 55km

### 位置図(沖縄県)



### <局問い合わせ先>

沖縄総合事務局  
農村振興課振興課  
企画指導官(経済資源)  
電話：098-866-1652

(令和2年調査時点)